



2022年11月1日
ハレルヤ保育園

11月20日は「世界子どもの日」

「うれしい言葉」で伝えましょう。言葉は人と人をつなぐ大切なツールです。お子さんは今、言葉の使い方、人に伝わる話し方などを体験していく大切な時期です。親子でうれしい言葉を見つけて、積極的に使っていきましょう。

言われてうれしい言葉

「うれしいことば」をさがしてみよう！
☆ありがとう
☆だいすき
☆がんばったね
☆やさしいね
☆たのしい
☆すごいね
☆よかったね
☆だいじょうぶ？
☆いっしょにあそぼう！



「悲しい言葉」を言われた時は…

「ばか」「あっちいけ」「むかつく」などの悲しい言葉をお子さんに言われた時は、「その言葉をいわれて悲しくなっちゃった」と率直に伝えます。乳幼児期は、感情のコントロールを学んでいるところです。発言を禁止するのではなく、いわれた相手が悲しくなることを知らせます。悲しそうな保護者を見ることで、「この言葉を使うのはよくないのかな」と感じて、覚えていきます。

まずは子どもの気持ちを聞いてみましょう

お子さんに何が嫌だったのかなど、気持ちを聞いてみてください。そして、お子さんの言葉をくり返、したり、代弁します。その上で「〇〇するといいよ」「こういうふうにできたらすごいね」などと伝えるようにします。



乱暴な言葉は子どもを傷つけます。大きな声で怒鳴ることや、「ばか」「ダメな子」などの人格を否定する言葉は、子どもの心や脳を傷つけます。また、ほかの子どもを傷つけてしまっていることもあります。「だめ」「やめて」「〇〇しないで」などの禁止ばかりでは、子どもには、どうすればよいのかわからないことがあります。否定的な言葉のかわりに、何をすればよいのかを具体的に伝えるように心がけてください。

保護者の皆様へ

寒暖の差が大きくなり、咳や鼻水が出て風邪をひいたり体調を崩しやすい季節になってきました。冬は感染症やウイルス性の胃腸炎が流行します。乾燥と低い気温はウイルスが好む環境で、感染力が強まりやすくなります。体の水分が不足していることも免疫力の低下につながります。乾燥していると喉や鼻の粘膜が乾燥し、感染に対する防御反応が弱まってしまう。ウイルス性の胃腸炎では下痢や嘔吐で体内の水分が奪われるため、脱水症になるおそれがあります。インフルエンザのような高熱を発する病気では発汗からミネラルを失いやすくなるため、水だけを飲むのではなく、電解質を含む飲料によって水分補給をすることが重要です。発熱や下痢、嘔吐などの症状が見られる場合は、症状が治まり十分に全身状態が回復してからの登園になるようにお願いします。インフルエンザやウイルス性胃腸炎などの感染症の場合には必ず医師の意見書、または登園届のご提出をお願いします。

10月の感染症報告

(7件) 10/1~29 現在
手足口病 5名
溶連菌感染症 1名
ヘルパンギーナ 1名

